

ホストファミリーの方とビラボン鳥獣保護園に来たときの写真です。オーストラリアならではの動物にふれあうことができました。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

周南市立太華中学校 3年

北村 佳子

Kako Kitamura

私は、この訪問団に参加して、自分のためにとでも良かったと思います。私の目標は、カルチャーフェスタに参加し、日本の文化を多くの人々に伝えるとともに、様々な国の文化に関心を持ってふれあうことでした。また、今自分の持っている英語力で、たくさん話をし、いろいろなことにチャレンジをして、自分を向上させるということでした。

私は、これらの目標を達成出来たとおもいます。まず、カルチャーフェスタでは、ホストファミリーの方が喜んでハッピーを着てくれたり、行進している時に、いろいろな人が手を振ってくれたり、たくさんの人々が日本の文化に興味があるのではと、うれしく思いました。行進が終わってお祭りの会場へ行くと、たくさんの方々の伝統的な料理や衣服などが販売されていました。私は、全てをゆっくり見て回ることは、できなかったけど、それぞれの国の文化にふれることができました。

次に、ホームステイでは、自分の伝えたいことをはっきりと伝えることができました。また、私はよく音楽を聞いているので、好きな歌手についてなど、共通したお話がたくさん出来ました。でも、「もう少し・…」という心残りが一つあります。それは、何回か無言になってしまった時があって、ホストファミリーの方が話しかけてくれるまで、ずっとそのままだったことです。私は、もう少し自分から積極的に話しかけていればよかったです。話したいことは山ほどあるのに、それが英文にできませんでした。だから、私は必ず英語を話せるようになりたいです。



タウンズビル市は、周南市と違って静かで穏やかでした。私は、自然とふれあうことが出来て、子供から大人までが住みやすい町だと思いました。

私は、最も驚いたことが二つあります。一つは、信号機がないということです。信号機はタウンズビルの市街地にはあつたけど、私が滞在した周りには全然見当たりませんでした。

もう一つは、タウンズビルの人々は時間をあまり気にしないということです。でも、私も滞在するうちに時間があまり気にならなくなりました。私は、時間が気にならなくなるということが、この町を落ち着かせて、ゆっくりとしているん



だと思いました。

私は、この体験を決して忘れることはないでしょう。この体験で私自身とても成長出来たのではないかと感じます。ホストファミリーの方に会う前は、とても緊張していたけど、ホームステイをして英語を話していた私は、とてもいきいきしていたと思います。

この体験を通して今後私は、英語を勉強し、明るい国際社会に協力をしていきたいと思えます。そして、タウンズビルの人々のように親切で明るい人になりたいです。また、人の役に立てる人になりたいです。



1. シンガポールのマールライオン公園での写真です。マールライオンと一緒に撮りました。水の勢いがすごかったです。
2. オペラハウスから、ハーバーブリッジをバックにして撮った写真です。すごく大きな橋でした。
3. カジノのレストランでの写真です。バイキングで食べきれないほどたくさんの種類の料理がありました。
4. シドニーのショッピングモールでの写真です。とても広かったです。
5. タウンズビルのキャッスルヒルの上での写真です。とても景色がきれいで、タウンズビルの町全体が見わたせました。





タウンズビル市友好親善訪問団に参加して



周南市立岐陽中学校 1年

野田 周作

Shusaku Noda

僕は今回の訪問団が始めての海外旅行でした。なので、実際に行く前はとても楽しみにしていました。でも、オーストラリアへ行く日が近づくにつれて、たくさん不安が出てきました。英語が通じなかったらどうしようなどいろんな不安がありました。シンガポールからブリスベンへの飛行機では不安で夜も寝れないくらいでした。でも、タウンズビルに着いてからは、英語が通じなくても、なんとかなるということが分かったので、とても楽しく過ごせました。そこで、この訪問団が、海外旅行始めての僕が感じたことを紹介します。

まず、海外は日本と比べて、サイズが大きいということです。スーパーで売っているジュースは3リットルの物でしたし、「ごはんの量も多かったですし、家のサイズも日本よりはるかに大きかったです。特に日本には無いけど、オーストラリアにあった物はプールです。プールはオーストラリアの家にはだいたいいりました。

次は、水の貴重さについてです。オーストラリアでは、水がとても貴重です。なので、水も日本より高いし、お風呂もそんなに入りません。それに、水道水が汚く、ろ過しないと飲めません。でも、日本では、水道のじゃ口をひねれば、きれいな水がでてきて、そのまま飲むことができます。僕は今まで水を無駄に使っていました。なので、これからは、水を自由に使えない国のことも考えて水をもっと大事に使いたいと思います。



French fries



スーパー



はちみつ売りのおじさん

次は、みんな明るくてようきな人だったということ。オーストラリアの人は本当にようきな人が多かったです。街中であいさつをしても、みんなようきに手を上げてあいさつを返してくれました。オーストラリアの人たちを見習って、これからは学校でもあいさつをされたらあいさつをしっかり大きな声で返したいです。

次は、お金のことです。オーストラリアは、一ドル八十四円で、他に五十、二十、十、五セントがありました。そこで気づいたのですが、帰りのシドニー空港で七ドル九十九セントの品物がありました。でも一セントがなくて八ドルを出すとおつりがもらえると思っただけですが、もらえませんでした。日本人の店員に聞くと「オーストラリアでは一セントが無いので八ドルになります。」と言われました。日本の一円は意外に便利だとゆうことに気がつきました。

ぼくは、初めての海外旅行でした。だからとてもたくさん日本とのちがいが分かりました。これからはできるだけ海外に行って、自分の視野を広げていきたいです。



Two dogs



Mom



Birthday party



Pool & trampoline

平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団

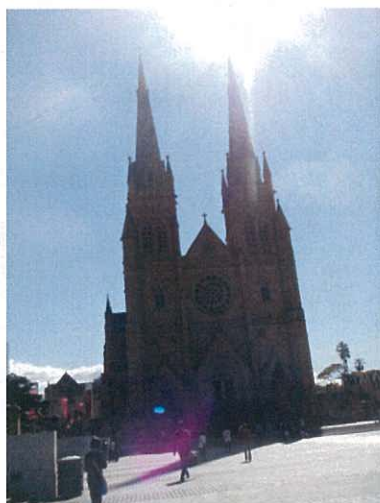


タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

周南市立住吉中学校 1年

八塚 晃介

Kosuke Yatsuzuka



セントメアリー大聖堂

ぼくは、この訪問団に参加する気は最初はありませんでしたが、パンフレットや行った人などの感想を見て、すごく楽しそうだったので応募してみると、見事当選してうれしかったのですが、その瞬間に不安も出てきました。外国に行く事自体が不安なのに、大人なしで外国の家に行くというのがなによりも大きな不安でした。

出発の朝、朝早く起き少しあわてながらバスに乗りに行きましたが、みんなまだ集まっておらず、少し不安になってきました。でも、集まってもあまり仲が良いわけではなく、うまくなじめるかなと思いましたが、バスの中で全員とすぐ仲良くなれました。ぼくがこの旅行で楽しみにしていたものの中の一つ、飛行機に乗るための手続きをする空港につくと、胸が高なりわくわくした気分になりました。長い手続きを終えて、長時間飛行機に乗っているとさすがにつかれましたが、オーストラリアに着いた時には、つかれなどなくなっていました。ここに来るまでにいろんなところに行きましたが、どこも楽しいものでした。



学校の生徒さん



レストランで皆と



キャッスルヒルからの眺め



パレード前にホストファミリーと

オーストラリア、タウンズビルに着くと、さっそくホストファミリーと会い、車でホストファミリーの家に行きました。ぼくのホストファミリーの方は同じ年の男の子、年上の女の子、お父さん、お母さんという家族でした。みんなとてもいい人で、初対面でも楽しく色々してもらいました。日本語はしゃべれないそうだったので、ぼくに分かりやすいように、ゆっくり丁寧に発音して下さいました。ごはんもおいしく、たくさん遠りよなく食べられました。ゆったりとした人たちで、ゆっくりねかせてくれたり、ぼくのペースに合わせてくれたりと、ホストファミリーの方々にはお世話になりました。ありがとうございました。感謝したいと思います。むこうの学校でも、外国人の友達がたくさんできて、いろ

いろ話しかけてくれました。オーストラリアの文化祭やパレードなどもやさしく接してくれました。またパレードでは、外人とだけでなく、日本の友達とも仲を深められました。年上だけだったので、最初は気まずかったけど、関係なく話しかけてくれたので感謝したいです。ホストファミリーとわかれ、飛行機に乗りホテルで一泊してから、再び飛行機に乗りとうとう日本へ帰ったときには、うれしいのか、うれしくないのか、複雑な気持ちでした。ただこの訪問団には色んな人が支えてくれたり、思い出せるようなこの経験を大切に、これからは生活していきたいです。



My Hostfamily

平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団

私がホームステイした所のホストファミリーと一緒に撮った写真です。お父さんの名前はマークで、お母さんの名前がダイアンで、女の子の名前がキャンシーです。初日、家に帰ってからすぐ公園に行きました。公園にはブランコしかなく、遊ぶ遊具がないと思っていたら、キャンシーが裸足で足のうまりそうぐらい柔らかい土に走って行って、「together!」と言ってきたので、私も土に走って行きました。とても柔らかくて、次に進もうとするとこけそうになって、歩くのが大変でした。

お母さんは、ショッピングモール、スーパー、カルチャーフェスティバル、海、キャッスルヒルと5つの場所に連れて行ってくれました。ショッピングモールの中は洋服ばかりでしたが、日本とは違った mentos を見つけることが出来ました。みかんの味でとても美味しかったです。お父さんは、日本の車の会社の名前を言っていたので、びっくりしました。オーストラリアでも「トヨタ」「ニッサン」などと言うことを知ることが出来ました。

2010/08/23

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して



周南市立須々万中学校 2年

大石 伽奈子

Kanako Oishi

私は、タウンズビル市友好親善訪問団に参加して、とってもいい思い出を作ることが出来ました。

ホームステイ先のお父さんやお母さんはとてもやさしくしてくれて、公園や海などいろいろな所に連れて行ってくれました。ホームステイ先の子供は、私にいっぱい話しかけてくれて、英語が分からなかった時にはゆっくりわかりやすく言ってくれたりしました。だから、安心してホームステイすることができ、落ち着いて英語を話すことが出来ました。また、私のホームステイ先と東さんのホームステイ先が友達同士だったので、分からない英語も二人で考えて解決出来たし、日本語と一緒に話している人がいるということで、すごく安心することが出来ました。

だけど、日本で買った国際テレフォンカードが使えなかったり、書いてあるとおりに電話しても家に電話が出来なかったりと、不安なところもいっぱいありました。

オーストラリアで食べた、フィッシュアンドポテトの魚の大きさは、すごくびっくりしました。でも、おいしかったので全部食べる事が出来ました。また、カジノのレストランのバイキングの食べ物の種類が二百種類以上あることに、すごくびっくりしました。そこにデザートがいっぱいあって、十種類ぐらいのデザートをみんなまでわけてたりして食べました。甘いものばかりだったので、胃がとてもムカムカしました。最後に食べたスイカがすごく美味しかったです。

1. 東さんのホストファミリーと私のホストファミリーの写真です。これを撮った時はホームステイ最後の夜で、二家族でピザを食べました。その時、テレビがついていて車についてのテレビ番組をやっていて、私のホストファミリーのお父さんが急に大きな声で「トヨタ・ホンダ」と言い出したのでびっくりしました。一瞬耳がジーンとなりました。2回目だけど、日本の会社の名前を言われると、なぜか分からないけど、うれしかったです。



2. 学校でホストチュードントと撮った写真です。いつも笑顔で見えてくれて、「テニス好き?とか「何の食べ物が好き?」等、沢山話しかけてくれました。最後の日は、ホストチュードントと人と一緒に授業を受けました。授業内容はテニスで、強い日差しの中ずっとテニスを見ていました。テニスを見ている途中に、2, 3人の人が日本語で「こんにちは」と話しかけてくれました。帰り道、ジョージという男の子が「僕は女子です。」と男の子なのにそんな事を言ったりと、とても楽しい帰り道でした。



最後に私がホームステイをして一番うれしかった事について書きたいと思います。私が一番うれしかった事は、ホームステイ最終日にホストファミリーのみんなが、「来てくれてありがとう。」と言ってくれた事です。このホストファミリーでよかったと思えました。そして、ずっと思い出に残るホームステイが出来てよかったです。また、このタウンズビル市友好親善訪問団がこのメンバーでよかったです。楽しかったです。ありがとうございました。

タウンズビルの公園はとても広くて、近くに海がある、日本とは違った公園ばかりでした。でも、遊具は日本とあまり変わってなくて、鉄棒がとても高く、普通サイズの鉄棒がないことにびっくりしました。私のホストファミリーの子供キャシーは高いところが苦手で、その鉄棒に乗せてあげるのが大変でした。また、オーストラリアの子供と遊んでいて、分かった事があります。それは、ほとんどの子供が、自己主張がはっきりしている事です。他の子と遊んでいたら、手を引っ張ったり、はぶって泣いてしまったりと、一緒に遊んでいて大変でした。



3. 左の女の子がキャシーで、真ん中の女の子が東さんのホストファミリーのイザベルです。この二人はとても仲が良く、2人で歌を歌ったりしている時がありました。イザベルはバレエを習っているの、家でバレエをやっているのを見たら、とても柔らかいという程ではないけど、私よりは柔らかかったの、うらやましかったです。この2人と東さんで海に行った時は、海の中でおにごっこをしました。イザベルとキャシーはまだ9歳なのに、泳ぐのがとても速かったのですごいなと思いました。タッチするのが大変で困りました。

↓カルチャーフェスティバルで飲んだものです。アイスだけで炭酸で、口に入れた瞬間舌がしびれるくらいシュワツときて、飲み込んだら鼻が痛くなりました。



また、甘いもあるので、最後には胃がムカムカして気持ち悪くなりました。でも、おもしろいものが飲めたので、少し満足です。

平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団

お祭りの後、ホストファミリーのサラちゃん
とメリッサちゃんとりました。
お祭りは楽しかったです。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

周南市立須々万中学校 1年

道源 里奈

Rina Dogen

私は、訪問団に参加して、言葉があまり通じなくても楽しめることを知りました。私はまだ中学一年生なので簡単な英語しかしゃべれませんでした。ホストファミリーの方々が私の分かりやすいように分かるまでつたえようとしてくれました。

それに、一番私と仲よくしてくれた、サラちゃんとはハンバーガーショップで簡単なサッカーゲームのようなものをしました。その時はサラちゃんからさそってくれ、ホストファミリーと私は大笑いしました。

プールで遊んだ時は、サラちゃんとメリッサちゃんと私で飛びこみをたくさんして石探しをしました。石探しはサラちゃんが少しプールに石を投げて、メリッサちゃんと私が拾いに行くというものです。メリッサちゃんは年下なので負けたくないと思っていましたが、メリッサちゃんはすいすいもぐってあっさり石を全部拾いあげていました。ですが、私はこずって二〜三個しか拾えなくて、がっかりしました。そんなことを思っていると、サラちゃんが手に持っていたいっぱいの石をプールに投げてしまいました。メリッサちゃんも私もびっくりするぐらいでした。メリッサちゃんはその私たちを見ていて楽しそうでした。全部拾いおわるとプールをやめて果物を食べました。

この時は、飛びこみは気持ちいいと思ったし、いがいと犬かきで泳いでいたりすることが分かりました。

カルチャーフェスタもいい思い出ができました。ゆかたを着ているとホストファミリーのお母さんがビデオを持って見せてくれました。私がゆかたを着た後、ホストファミリーのお母さんに、すこほめてもらって



1. ホストファミリーの家の近所の子供といっしょにとりました。

近所の子供たちとも遊べて、とても楽しかったです。

れしかったです。「ビューティフォー」と言ってくれたのですが、もしその言葉の意味を知らなくても、笑って言っていたのでほめられていることを理解できたと思います。このようにやっぱり少ししか言葉が通じなくても、相手の表情、様子、行動でだいぶ気持ちが分かったりしました。一番多かった気持ちはたぶんホストファミリーも私も楽しいだと思います。どんなところでも楽しい気持ちにできる人がいっぱいいるような国だなと思いました。日本人もときどきは政治などのかたくななことを忘れて大人も子供もおもいきり笑うことが大切だと思います。最後に、やっぱり笑顔で元気に過ごすことが大事だと思います。



2. シドニーでみんなとつたものです。シドニーは寒かったけど、とてもきれいなところでした。

3. 学校をいっしょにまわった生徒さんといっしょにとつたものです。いっしょに美術をして、楽しい時間が過ごせました。

4. いっしょに行った友達とりました。いろいろな人と仲よくなれてうれしかったです。





お世話になったホストファミリーとの一枚



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

周南市立周陽中学校 3年

中村 希

Nozomi Nakamura

私がホームステイ先で頑張ろうと思っていたことは、英語が話せなくても、しっかりとコミュニケーションをとろうということでした。

八月十九日、初めてホストファミリーに会い、その時お腹をこわしていた私をみんなが心配してくれました。私は、ホストファミリーが親切な人達で良かったと思いました。でも、私はホストファミリーが言った言葉がよくわからなかったりして少し悲しくなりました。とくにホストファーザーの英語はなまっついで、この日はまったくといっていいほど言っていることが分かりませんでした。

次の日私たちは学校に行きました。学校で私が一番に驚いたことはモーニングティーがあることでした。なんでモーニングティーがあるのか不思議でした。他にも、校則がゆるかったり、みんながピアスをしていたり、そんな所も日本とはちがうなと感じました。夕方になり、私はホストスチューデントのケイラと一緒に学校へ行きました。学校ではお祭りをやっていました。お祭りは遊ぶ所もあり、私はバンブカーというのに乗りました。バンブカーは私が思っていた以上に難しく、私はほとんど店員さんに運転してもらっていました。まともに運転できなかったけど、ものすごく楽しかったです。



八月二十二日、この日の昼、ケイラに誘われてスパーへ行きました。そこでパンを買い、ホストマザーがサンドウィッチを作ってくれました。サンドウィッチを食べながらケイラにパソコンでいろんな写真を見せてもらいました。オーストラリアの景色や動物の写真を見ました。ケイラは写真の説明してくれました。たまに変なこと言ったりしてとても楽しかったです。

八月二十三日、学校でお別れ会がありました。ホストファミリーに折り紙を教えようとしたけど、折り方を忘れていて教えられませんでした。ごはんはバーベキューでした。ホストファミリーとケイラがおかしなことを言って、ホストマザーがあきれていました。その後、ホストファミリーと二人で話しました。でも、なまっている英語だったので半分くらいしか分かりませんでした。ホストファミリーは私にこう言ってくれました。

「君は最初、英語がダメだったけど、今はちゃんとできているよ。」

私はこんな風にいつてもらったことがとても嬉しかったです。

私はホームステイ中に英語で会話することはできませんでした。でも、ホストファミリーとのコミュニケーションはしっかりとれた気がします。今回の体験を、何か別のことに活かしていこうと私は思いました。



1. 学校のお祭りでケイラと一緒に
2. シンガポールで団員仲間と
3. パレードの前にみんなとの一枚
4. お祭りに参加する前に



ホストファミリーと一緒に



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

周南市立周陽中学校 3年

室永 佳奈

Kana Muronaga

私はオーストラリアに行くことになった時にふたつ心に決めていたことがあります。それはできるだけ沢山のひとと話をすることです。私は日本人同士でも初対面のひとと話すときは緊張してうまく話せなかりません。だから私はオーストラリア訪問をきっかけに自分の苦手な部分を克服したいと思いました。

私がオーストラリアに行って一番印象に残っているのは、みんながフレンドリーで優しいことです。ホストファミリーのサイモンは私がいかに分らないことがあると、丁寧に説明してくれました。それでも分からない時は紙に書いてくれました。それでも嫌にならずに相手をしてくれるなんて、日本じゃなかなかないことだなあと思いました。そんな風にホストファミリーの人たちは私に向かってくるので、どうしても受身になりがちでした。しかし、私がひとつだけ受身にならずに話せたことがありました。それは折り紙についてです。ホストファミリーのサイモンは折り紙が好きで、よく折り紙を折っているようでした。でも本に載っている絵の説明だけではよく分からないから、一緒に折り紙を折ってほしいと言われて、本を見て分からないところを教えながら折ることができました。

言葉は正しくなかったかもしれませんが、言葉を使うときに重要なのは正確であるかどうかではなく、伝わるかどうかと伝える意思があるかどうかかなのだと思いました。

もうひとつ私が印象に残っているのは、食事です。日本人は食事をする前に「いただきます」といいますが、オーストラリアの人たちは何も言わずに食べ始めます。それが私には少しさびしく思いました。オーストラリアの人にとってそれは当たり前なのだと思いますが、日本人の私にとってそれは大きな違いでした。私はオーストラリアで食事をするときも必ず手を合わせて「いただきます」と言いました。そうしないと食事が美味しく頂けないような気がしたからです。身をもって感じるわずかな違いが沢山ありました。しかし、文化の違いといわれることがあっても根本的な考えはあまり変わりません。つまり些細な違いを乗り越えることは、そんなに難しいことではないのです。

私は誰も知り合いのいない空間に行くことで初対面の人と話すことはすごく簡単になりました。私が悩んだり緊張したり言葉が出なかったりするということは思っていた以上に簡単なことでした。ただ関わりたいという気持ちを表に出して、伝えたいと思うことが重要だったのです。

私はこれからこの経験を生かして、今から出会う初対面の人や、もう出会っているけど上手く話せない人とたくさん話をして、今まで知らなかった友達を沢山つくりたいと思いました。

☆ おりがみ ☆



学校でできた友達と一緒に



香田先輩と留学生と一緒に



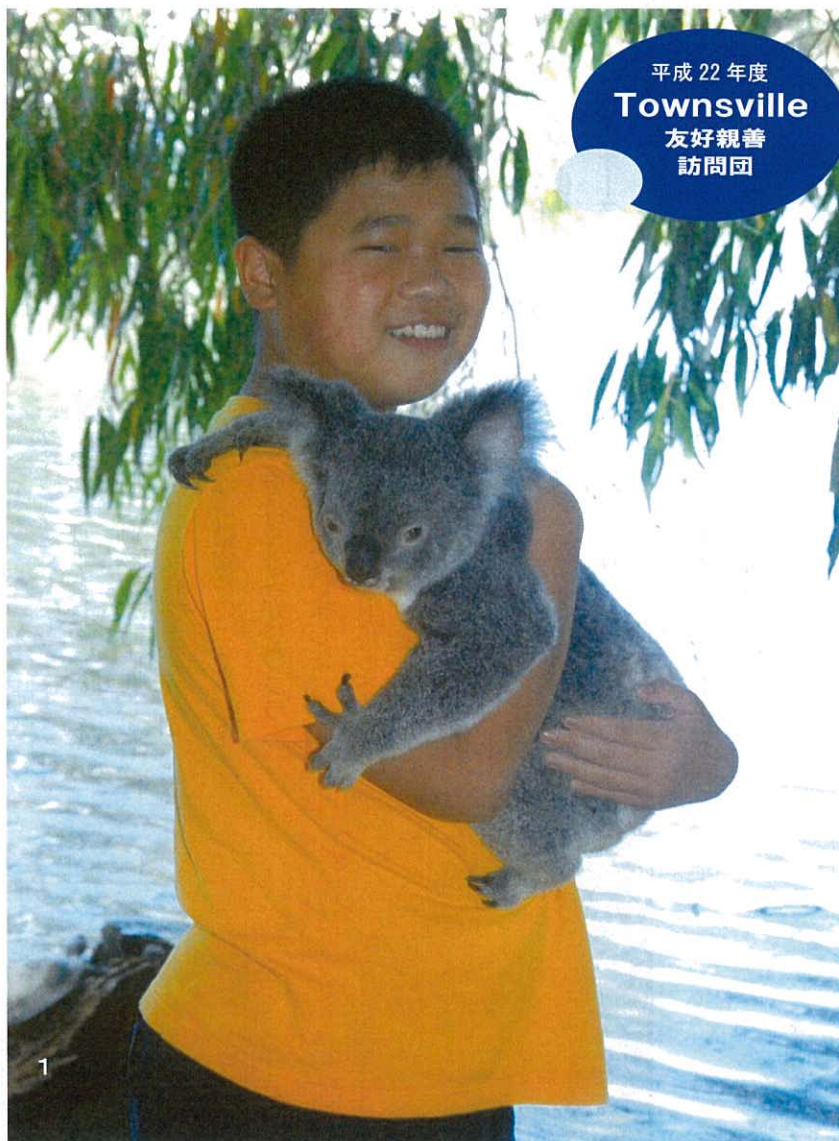
ホストファミリーの家

1 & 2. ビラボン・サンクチュアリーで、コアラとウォンバットととった様子。コアラは、爪が痛くてウォンバットは、まだ子供なのに重い。

3. カルチャーフェスタでとった様子。

4. シンガポールでとったマーライオン像。

5. ホストファミリーの、エマ・チャドウィックさん一家。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して



周南市立秋月中学校 2年

加藤 享平

Kyohei Kato

僕は、中学生十二名、高校生三名を含むタウンズビル市友好親善訪問団の一員として八月十八日に周南市を出発しました。シンガポールを経由した、一日と二時間四十分の長い道のりでした。でも、途中でマーライオン公園などのシンガポール市内観光も出来たし、同時に二つの国に行けたのはラッキーでした。今までに飛行機は家族旅行で何回も乗ってますが、今回は遊びではなく、周南市の代表としての自覚を持たなければと思うと緊張のあまり気分が悪くなりました。

タウンズビルに到着してまず感じた事は、空の青さが日本と全然違う事です。それと、日本と比べると信号機が少なく縦型でした。交差点の真ん中にロータリーがあつて、車の進み方が、ラウンドアバウト通過法という、日本とは違うものでした。でも、車のハンドルは右側についていたし、日本といっしょの左側通行でした。

学校を訪問し、ホストファミリーのエマ・チャドウィック一家と上手く交流が出来るのか、日本のお土産は気に入ってもらえるのか、英語がどこまで通じるのか、不安と期待で胸がいっぱいでしたが、会ってみると親切そうな人で安心しました。

タウンズビルでは心に残る出来事がいくつかあります。まず、学校の文化祭で迷子になってしまい二時間ぐらい校舎内をさまよってブルーさん達に助けられた事です。この時程、英語を話せない事が悔しく、人の親切が身にしみた事はありません。そして、カルチャーフェスタにゆかたを着て参加した事です。僕のゆかたは祖母の手縫いの物で、それを見た他のホストファミリーの人から相撲取りの様だと言われました。オーストラリアの人がお相撲さんのゆかたを知っているのに驚きました。それに、新聞記者の人に写真を撮ってもらいました。祭りでは「ワッショイ」と大声で叫び、ハイテンションになりました。

でも一番感動したのは、ホストファミリーと行ったピラボン・サンクチュアリーです。僕が手紙に動物がすきと書いたのを、覚えてくれたのだと思います。コアラやウオンバットといった、オーストラリアにしかない動物やワニやヘビを抱いたり、写真を撮りました。コアラは毛並みがフワフワしていてお土産に買った人形も感触がよく似ていました。そして爪が皮膚にくい込んで痛かったです。数メートルもあるヘビを首に巻きつけた時は重くて冷たくてヌルツとしていて、身体中に巻きついて来る様でした。僕のためにここを選んで連れて来てくれて、感謝の気持ちで一杯になりました。エマさんの子供のリアムとヘンリーとも仲良くなりました。

このオーストラリアでやったことは、かけがえのない思い出になりました。これからまた、ホームステイに行ったりする事があったりしたら、オーストラリアで学んだ事を生かして、オーストラリアで達成できなかった事を達成したいです。

